

House in Chayama

茶山の家

城南区茶山2丁目19番10号



所有者 川原 健・裕子
設計者 I.S.A 設計工房
施工者 重岡・藤松特定建設工事共同企業体

概要
用途 住宅
構造 鉄筋コンクリート造
階数 地上2階、地下1階
敷地面積 456.04㎡
建築面積 253.17㎡
延床面積 401.88㎡
完成年月 2006(平成18)年2月



後ろの山の緑を借景に、閑静な住宅街に立つ「茶山の家」は、新たに立て直された住宅にもかかわらず、すでにしっくりと周りの景色になじみ、あたかも以前からそこにあったような、落ち着いた存在感を漂わせている。土塗り風の壁は左官の技を伝え、銅板葺きの大きなひさは、急な雨や夏の日差しをいつとき避ける見知らぬ客人にも優しいにちがいない。伝統的な日本家屋のよさを生かしながらも、曲面で広がる壁、曇りガラスをはめ込んだ格子、色むらの美しい茶系のタイル、そして2階前面を覆うベージュの砂岩の大きな割石がモダンなアクセントを与え、上質



の建築のひとつの形を示している。時代を経てさらにどのように成熟していくのか、楽しみな一軒が建てられた。(審査委員 三浦佳世)

The 20th FUKUOKA Urban Beautification Award 2006

第20回 福岡市都市景観賞受賞作品



総評

20年は重い。福岡の景観は、この20年の間に着実に進化した。開発の側面のみが強調されがちだが、緑化、生活基盤の充実、歴史資源の保全などの面でも、バランスのとれた整備が認められた。

創設期からの都市景観賞の歴史を振り返ってみると、高度成長期に海の中道海浜公園ができ、福岡に新たな景観の視点が生まれ、シーサイドももちなどの都市基盤が整備され、バブルがはじけた頃もユニバーシアードなどで元氣な福岡を印象づけ、その後、歴史や市民の活動に着目することによって評価の視点を拡大した。世界のメディアの評価も高く、福岡市は活力のある国際都市として注目されている。魅力的な景観づくりを推進するために福岡市都市景観賞は、景観誘導や業界の育成と並ぶ景観行政のひとつとして、すぐれた作品や活動を評価し、勇気づけ、目指す方向を示してきた。

20年目の今年は、一般表彰として7件、景観エッセー4作品を選定した。残念ながら特別表彰は該当なしとした。今年の推薦総数は505件。締め切りを早くしたためか昨年に比べるとやや少ないが、素晴らしい物件が集まった。6月30日に第一次審査を行い、7月25日に現地確認を行って受賞物件を決めた。「西南学院大学法科大学院、大学かぶ石橋さんの「窓から見える景色」の4作品を選んだ。景観に著者の気持ちが映し出されている秀作ぞろいである。

時代に対応した景観の意味を考えながら20年が過ぎた。この発展を支えてきたのは、150件に及ぶ受賞者の努力と同時に、わが国最大の景観賞に育ててきた市民の意識の高さである。活気が戻りつつある昨今であるが、揺れ動く経済状態の中でも視点を深めてきた景観の蓄積を、福岡の財産として誇らしく思う。

(審査委員長 佐藤 優)

院、西南クロスプラザ」は、以前に景観賞を受賞したチャペルを保存修復し、これと連続させて大学院等の一面を美しく充実させた。次いで、9人の審査委員が投票をしていながら1点差が続き、例年以上に議論を尽くした。その結果にぎやかな利用状況が印象的だった「福岡市立西陵公民館老人いこいの家」、銀座などにくつか類似の店舗があるものの立地に適合させる工夫が見られた商業店舗「天神ルーチー」、1929年に建てられた懐かしき趣のある「日本基督教団福岡警固教会」、ノルウェーとの交流拠点にもなる「茶山の家」、修復して使い続けてほしい酒蔵「濱地酒造株」、唐津街道の面影を伝える「(株)マイヅルみそ蔵・店舗」の7件を選定した。惜しくも選外となった物件との差は少なく、来年の推薦を待ちたい。また、完成していない事業の取り扱いに苦慮したが、適切な時期に表彰することになるにちがいないと、今年は見送った。

景観エッセーは、昨年の93作品から97作品にと、年々増えている。魅力的な作品が多い中で、子どもに伝える自然を描いた大坪さんの「福岡の景観を遊び場の記憶」、商店街を飛ぶツバメを楽しみにしている佐野さんの「ツバメが来る風景」、雨戸を開ける度に見える油山を亡き父の思い出に重ねた倉掛さんの「元氣を出そう油山」、5階の窓からの景色が色あざやかに浮

福岡市都市景観賞審査委員会委員 (50音順 敬称略)

岡本 均	西日本短期大学教授
落合太郎	九州産業大学教授
菊池成朋	九州大学教授
佐藤 優	九州大学教授(委員長)
中村敏子	九州朝日放送(株)社長室広報部担当部長
西山徳明	九州大学教授
三浦佳世	九州大学教授
森岡侑士	NPOデザイン都市・プロジェクト 理事長
中村耕二	都市整備局長

西南学院大学法科大学院、大学院、西南クロスプラザ

早良区西新3丁目194番1号



所有者	学校法人西南学院
設計者	(株)日建設計
施工者	(株)竹中工務店九州支店【法科大学院】 (株)フジタ九州支店【西南クロスプラザ】
概要	
用途	学校
構造	【法科大学院】鉄筋コンクリート造 および鉄骨造 【大学院】鉄筋コンクリート造、 一部プレキャストコンクリート造 【西南クロスプラザ】鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
階数	【法科大学院】地上4階、【大学院】地上4階、【西南クロスプラザ】地上2階、地下1階
敷地面積	39,803.78㎡
建築面積	【法科大学院】1,671.70㎡、【大学院】1,730.77㎡、【西南クロスプラザ】1,445.65㎡
延床面積	【法科大学院】4,378.24㎡、【大学院】5,251.98㎡、【西南クロスプラザ】2,283.48㎡
完成年月	【法科大学院】2004(平成16)年3月【大学院】2005(平成17)年3月【西南クロスプラザ】2004(平成16)年9月



本キャンパス開発のシンボルである旧西南学院高等学校講堂は、九州大学事務局第一庁舎、福岡高校と並んで、福岡近代化の歴史を教育施設の側面から未来に伝える貴重な遺産であり、いずれも景観賞を受賞している。本プロジェクトは、まず、この貴重な近代化遺産の価値を際立たせ発展させる新たな建物群の空間配置と建築意匠に優れる。そしてさらには、西新の賑わう商店街や閑静な住宅地のもつ「旧い福岡」と現代建築に彩られた百道浜の「新しい福岡」とをつなぐ回廊の役割を担う点において、地域に優れた景観を創出していると言える。都市開発の中で免罪符的



に孤立して保存される近代化遺産建築が多いなか、大切にしたい都市の記憶をいかに新たな環境として未来に手渡すべきかについて再考させられる開発でもある。

(審査委員 西山 徳明)

天神ルーチェ

中央区天神2丁目3番24号



所有者	みずほ信託銀行(株)
設計者	ユナイテッド・アーバン投資法人
施工者	(株)日本設計九州支社 安藤建設(株)九州支店
概要	
用途	商業ビル
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階、地下1階
敷地面積	1,137.29㎡
建築面積	920.03㎡
延床面積	6,017.74㎡
完成年月	2005(平成17)年11月



賞の対象となった物件は、遠目にも目立つように、激しく他と競いがちな建物や看板類が横行する市街地の中で、建築ラインを少しセッバックさせていることや、「夢のスマロ(四馬路)の霧降の中で」ほかし絵のように浮かびあがる、押さえた味の壁面広告は、茶席で庭の全ての花を摘み取り、ただ1輪のみ床の間に飾ったわびの世界にも通じる手法である。街中のランドマークは視覚的にアッと驚く単なる目印や目標物ではなく、街行く多くの人々にとって、心の片隅に残る存在であれば十分であり、対象は十分都市景観賞に値する。尚地表の大部分が舗装されヒー



トアイランド現象に悩む天神地区では願うべくもないが対象が霧の中の光の軸に浮かぶ光景を見たい衝動に駆られる。

(審査委員 岡本 均)

(株)マイヅル みそ蔵・店舗

西区姪の浜3丁目3番27号



所有者	(株)マイヅル
概要	
用途	工場・店舗
構造	木造
階数	地上1階
敷地面積	683.60㎡
建築面積	496.58㎡
延床面積	496.58㎡
完成年月	1892(明治25)年頃



姪浜の旧唐津街道沿いに並んで建つ2棟の妻入町家である。大正期までは酒蔵だったが、戦時中には飛行機の部品工場として使われ、さらに終戦直後の昭和21年より味噌屋として利用されるようになった。このように用途を変えながらも長期に亘って建物が維持されてきたことは、町家が本来もつ柔軟性と持続可能なあり方を示すものである。しかし、近年ではその維持が難しい状況となっている。

この建物の場合、4年程前に老朽化が問題となった際、建替えではなく改修が選択された。そして、雨漏り等の問題解決とともにファサードにも手が加えられ、旧街道



の佇まいに相応しい外観が再生された。そこには文化財とはちがう「生きた町家」の現在形が示されている。(審査委員 菊地 成朋)

濱地酒造(株)

西区元岡1442番地



所有者	濱地酒造(株)
概要	
用途	工場・店舗
構造	木造
階数	地上2階
敷地面積	1,922.92㎡
建築面積	716.71㎡
延床面積	1,036.43㎡
完成年月	1870(明治3)年



創業130年余の濱地酒造は、糸島半島の田園地帯を走る県道85号線沿いにある。明治3年に建てられた酒蔵は、今も仕込み倉や貯蔵倉などに使用されている現役だ。がつしりとした梁や柱は酒造りを見守ってきた。酒蔵と主屋(昭和28年築)に囲まれた一角には、杉の酒林と役目を終えた巨大な酒樽が配され、老舗の造り酒屋として趣きある空間になっている。しかし、風雨や福岡西方沖地震による傷みで、屋根瓦のずれや外壁の亀裂などが目立ってきた。貴重な建物は、酒造りの伝統とともに守り続けてほしいものである。

近代的な建築が林立する九州大



学伊都キャンパスのすぐ近くに、明治生まれの酒蔵が生きている。(審査委員 中村 敏子)

福岡市立西陵公民館・老人いこいの家

西区上山門3丁目5番1号



所有者	福岡市
設計者	(株)青木茂建築工房
施工者	(株)重岡工務店
概要	集会施設
用途	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
構造	地上2階
敷地面積	1,124.01㎡
建築面積	539.59㎡
延床面積	616.81㎡
完成年月	2003(平成15)年3月



スーパーインポーズという映画で使われる手法がある。前の画面を少しずつ消していきながら次の画面に遷り変わる。時間の記憶がすり替わる瞬間だ。この手法が都市景観でも同じように使えることを、西陵公民館は見事に示してくれた。昭和56年以来的の改築として計画されたが、よく見る継ぎ接ぎの増床とは異質である。建築と広場の空間に新旧の軸線が斜めに交差する。ガラスで覆い囲まれた新しい空間は、旧きよき風景の痕跡と重なり合いながらスーパーインポーズする。建築内部と外部環境は見事に融和し、広場をうねる空気の流れが屋根を見上げる風景となって地



域に溶け込んでいる。古い風景の記憶に、子ども達の幸せな奇声がこだましているようだった。
(審査委員 落合 太郎)

日本基督教団 福岡警固教会

中央区警固2丁目11番20号



所有者	日本基督教団福岡警固教会
設計者	中村 鎮
施工者	田中忠雄
概要	教会
用途	鉄筋コンクリートブロック造
構造	地上3階
敷地面積	737.00㎡
建築面積	367.11㎡
延床面積	709.36㎡
完成年月	1929(昭和4)年4月



この教会は、都心といっても良い土地高度利用のための高層化が進む環境にある。昭和4年(1929年)の築造であるから既に80年に近い時を経ている。九州でも最初の鉄筋コンクリートブロック造とされる低層の構えは、蔦に覆い尽くされ、建築という行為の歴史の重たさが伝わる。ともすれば「何でもあり」を是としてきたかに見える慌しく錯雑とした都市の中で、周辺との対比が生む静謐な緊張感が爽やかである。その姿には、壁面緑化という技術的・功利的で表面的な観点では納まりきれない、やはり何かたくなでスピリチュアルな雰囲気漂っている。都市



景観の貴重な異形・異貌とでも言えようが、その末長い存続を期待したい。
(審査委員 森岡 侑士)